



人間牧場主・年輪塾々長  
若松 進一

## 女性が輝く時 まちが輝く

もう随分遠い昔に聞いた世間話ですが、「戦後強くなったのは女と靴下」と言われていました。ところが戦後七十年経った今では、女性の強さは男女同権どころか、男性をものゝ勢いで、中には財布持ちの特権をいいことに、家庭の決定権まで奪う恐妻家もいて、家事全般や子育ても主婦から主夫へと移ろうとしています。しかし一方で女性の社会進出は目覚ましいといえども、日本ではまだまだ封建的な男尊女卑の風潮が根強く、男性中心の社会となっているようです。

地域づくりの現場に目を転じると、むしろ男性より女性の方が様々な活動に深く関わり、「女子力」を活かして存在感を示しています。「女子力」(Women's Power)という耳新しい響きの良い言葉

は、そんなに古くから使われている言葉ではなく、2009年にこの言葉が流行語大賞に選ばれてから、にわかには社会のあちこちで使われ始めました。

私たちの町では、二十年前まで女性最大の勢力は婦人会でした。婦人は地域の様々な分野で活躍し大いに地域貢献をしましたが、社会の変化に対応しきれず斜陽化の道を辿り、現在では組織がなくなった地域も沢山あるようで、返す返すも残念でなりません。

婦人会という組織が弱体化した大きな原因は、何と言っても女性を取り巻く家庭や社会環境の変化です。大家族の時代、女性は嫁ぐと嫁・姑の難しい人間関係が待っていて、嫁が外に出て活動すること等殆どなかったのです。やがて女性が結婚しても外で働くようになつたり、核家族化が進むと女性に時間と金銭の余裕が生まれ、高学歴ゆえ主張もするようになってきました。そして趣味・教養や文化などを楽しむ様々なグループが生まれ、それらは急速に進んだインターネットでネットワーク化されているのです。

私はかつてまちづくり行政を推進してきた一人ですが、この世の中女性が半分もいるのに、女性のパワーをまちづくりに活かしていないことをいち早く察知し、進取の気性に富んだ女性を十五人選

んで、エプロン会議という女性組織を立ち上げました。エプロン会議は期待に応え町を美しくする花咲くまちづくり運動で、J.R予讃線沿いに菜の花の種を蒔いて育てる等、現在の礎となる華々しい成果を上げたのです。

その後行政主導から住民参画へと活動は移行し、花の会が生まれて現在に至っていますが、そのメンバーの中には人づくりの一環として世界一の花の街といわれるニュージブラント・クライストチャーチへ派遣され、グレイドを高めて現在も町民をリードしているのです。男性であれ女性であれ地域づくりに関わる者は、知らない人や知らない土地に出会い異文化ギャップを感じないと、新しいまちづくりへといざなうことは出来ませんが、今もそれらで培った女子力を活かし、生き生きと輝いて地域をリードしながら活動している人たちを見るにつけ、人づくりの大切さを実感するのです。

そんな中でつい最近私の町でも少し変わった女子力と思える人たちが頭を持ち上げてきました。一つは四国サイコー大学の学びを機に生まれた「まちづくり学校双海人」です。このグループは高校生から私のような高齢者に至るまで、様々な人が毎月1回程度まちづくりについて学習をしています。が、「いいことは直ぐ



しずむ夕日が立ちどまる町の「軽トラ市」には若い女性の出店が多い

に実行する」という合言葉の基、「知行合一」を進めていて、その学習から始まった毎月1回の「軽トラ市」は話題を呼び、あちらこちらへ波及しています。「まちづくり学校双海人」の運営に携わるのは比較的若い女性のメンバーが中心です。女性は男性にない美的感覚やセンスの良さを持っていきますし、暮らしの視点、経済的視点で物事を考えることが出来るので、地域づくりにはなくてはならない存在として、新しい風をどんどん起こしているようです。

わが家の若嫁もふとしたきつかけで若いお母さんたちと共同で、軽トラ市に出店するようになりました。売っている商品は他愛ない手作りのものばかりですが、私たちの考えをはるかに超えた面白い発想で取り組んでいて、幼児を巻き込んだ月に一度の軽トラ市がとても楽しみなようです。

軽トラ市への出店準備で生まれた子育てを目的にした英会話スクールも、悩んだ末立ち上げましたが、予想以上の参加者があり、子育てをしながら地域づくりを行なう若い女子力は侮れない存在となってきました。

もう一つ私たちの町で忘れてならない女子力の筆頭は、何といっても漁協女性部です。平成七年にオープンした道の駅ふたみシーサイド公園の一角に、小さなじゃこ天のお店を起業しました。最初は中々上手く行きませんでした。最初は真心を売るお店として頑張ったお陰で、串に刺して歩きながら食べるじゃこ天やラヴじゃこ天が話題となり、今では行列のできる店にまで成長しています。いやはや女性の底力にはただただ脱帽です。起業した漁協女性部の偉さは女性の働く場の確保や経済活動もさることながら、プラスワンとして社会への貢献を上げており、しっかりとボランティア活動をし

ているのです。

「女性が輝く時まちが輝く」、これは最早スローガンではなく、よそ者力+若者力+馬鹿者力×女子力=地域力という方程式が成り立ち、女子力なくしていい地域づくりはあり得なくなってきました。

これまでは女子力といえば女性の美しさや若さ、身だしなみなどややもすると個人の輝きが強調されてきました。勿論それらも大事ですが、ふるさとを愛し、ふるさとを正しい方向に導き、ふるさとのために活動する女性の集団力こそ、本当の女子力であるような気がするのです。私たちの周りにはそんな総合力を持った人たちがグループが沢山出来つつあります。頑張れ女子力、応援しています。

「これからの 社会は女子力 ものを言う 俺の家でも 形勢逆転？」  
 「よそ者と 若者・馬鹿者 もう一つ 女性の力 侮らないよう」  
 「これからは 男威張るな 半分は女性だという ことを忘れず」  
 「汗よりも 香水匂い 酒よりも コーヒー紅茶 ケーキに料理」  
 (若松進一 笑売啖呵より)